

広報

環境カウンセラーちば

第33号

特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。
環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。



「低炭素社会の構築に向けたロードマップ」

国立環境研究所地球環境研究センター 芦名秀一氏の講演をきいて

服部達雄

今年2008年は京都議定書の「第1約束期間」がスタートした重要な年であるが、それ以上に注目されるのは2013年以降・ポスト京都議定書の国際的な温室効果ガス削減の枠組みづくりを睨んで、地球温暖化対策を主要テーマとする主要国首脳会議「北海道洞爺湖サミット」が7月7,8,9日に開催されたことである。

この洞爺湖サミットを控えた今回の通常総会に、(独)国立環境研究所から芦名秀一氏を迎え、「低炭素社会の構築に向けたロードマップ」と題した記念講演を持たせたことは正に適宜な、意義大な企画であった。

〈芦名氏講演要旨〉

(1) 2050年CO₂50%削減の意義：「Cool Earth 50」

京都議定書は、温暖化問題を解決するための初めの一步にすぎない。これからは、世界的に温室効果ガス、特にCO₂を出さない社会（低炭素社会）づくりが必須になってくる。

(2) CO₂を大幅削減した社会の姿：「低炭素社会」

低炭素社会は、市民・企業・行政など、すべての人・関係者が、考えうる全ての技術を投入してやっと到達可能な姿であり、何か一つの対策・技術や誰か一人の努力だけでは到底実現することはできない。

(3) 低炭素社会構築に向けたロードマップ：

「低炭素社会に向けた12の方策」

今こそ、「私たちの住みたい・子孫に残したい、温室効果ガスを出さない（低炭素社会、脱温暖化社会）とはどのような姿か?」、「低炭素社会へ向かうには、私たちは何をすればいいのか?」を真剣に考えるべき時期に来ている。

「低炭素社会に向けた12の方策」

1. 快適さを逃さない住まいとオフィス
2. トップランナー機器をレンタルする暮らし
3. 安心でおいしい旬産旬消型農業
4. 森林と共生できる暮らし
5. 人と地球に責任を持つ産業・ビジネス
6. 滑らかで無駄のないロジスティクス
7. 歩いて暮らせる街づくり
8. カーボンミニマム系統電力
9. 太陽と風の地産地消
10. 次世代エネルギー供給
11. 「見えるか」で賢い選択
12. 低炭素社会の担い手づくり

2050 日本低炭素社会シナリオチーム

(独)国立環境研究所他 (2008年5月)

地球温暖化の原因が人為的要因、化石燃料の大量消費にあることを明確に示したIPCC第4次報告書を持つまでもなく、すでに我々の身の回りでも温暖化が実感され、世界的な異常気象のニュースを頻繁に聞くようになってきている。しかし、米国が京都議定書に加わらなかったことから、世界は実効ある対策を実質的に取り得ず、この10年間を無為に過ごし、そして今や温暖化に伴う気候変動のさまざまな影響への「適応策」を検討しなければならないところまで来てしまった。

気候変動に伴う壊滅的な影響を避けるためには、温暖化を2℃以下に抑えなければならず、そのためには2050年までに世界全体のCO₂排出量を少なくとも1990年の50%まで削減する必要があることがほぼ世界の共通認識となっている。

2007年5月のドイツ・ハイリゲンダムサミットにおいて安倍前首相は、「クールアース50」を提唱し、2050年までに世界全体の温室効果ガスを半減させるとの長期目標を掲げた。これを引き継いで福田首相は、2008年1月のスイス・ダボス会議において「クールアース推進構想」を提案し、今年6月9日に「『低炭素社会・日本』をめざして」と題した「福田ビジョン」-日本が取り組む地球温暖化対策-を発表し、「低炭素革命」に真剣に取り組むことを表明した。しかし、2020年への中期削減目標が、国内産業界に引っ張られて、2005年比14%削減(1990年比8%削減、森林吸収分4%を含む。)という、実質的には削減目標に値しないものとなってしまい、また、低炭素社会への具体策においては革命というには程遠い、切迫感も迫力も感じられないものであるが、「低炭素社会」という言葉が日本のマスコミに認知されることとなったのは事実である。

そして迎えた洞爺湖サミットは、当然予想されたことではあるが、中期削減目標の具体化どころか、長期目標においても「2050年までに温暖化ガス排出量を半減する目標を世界各国で共有し、国連で採択するよう要請する。」との玉虫色の議長総括を福田首相が発表して終了となった。

今年2008年前半の急激な原油価格の高騰は「第3次石油危機」と言うべきもので、今や原油価格は1バレル140ドル台に乗るところまで来ている。この原油高をもたらしている石油需給における構造問題を解決するには、従来からの延長線上での省エネルギーでは到底及ぶところではなく、正に「低炭素革命」に踏み出すしかない。低炭素社会への歩み、すなわち、

1. 炭素に依存したエネルギー供給からの脱却
2. 低炭素型への国土・社会、経済・産業の構造転換
3. ライフスタイルの変換

は、20世紀に我々が克服した「エネルギー革命」をはるかに凌駕する苦難の路であろうが、何とか成し遂げねばならない。そして今や世界は低炭素革命をめぐる大競争の時代に突入している。現在の米国自動車メーカー例のように、既存産業の保護に固執し、世界の潮流に取り残される愚を犯してはならない。低炭素革命の中にこそ次代の大きなビジネスチャンスがあり、新たな経済成長の源泉があると言えよう。

今回の特別講演は、我々自身が低炭素革命の当事者であることを自覚させ、今後具体的にどんな取り組みをしていったらよいかを考える貴重な機会となった。我々一人ひとりの認識と行動がなによりも重要であることをあらためて感じさせられた。

<第6回通常総会>

服部達雄

第6回通常総会は平成20年5月25日(日)に千葉市市民会館特別会議室において開催された。会員総数129名に対し、102名の出席(うち、委任状51名)。

議長：戸村 泰理事長

書記：二宮 恵・長谷川三喜雄

議事録署名人：本間 格・西田啓作

- (1) 「平成19年度事業報告ならびに決算報告」
 - (2) 「平成19年度監査報告」
 - (3) 「平成20年度事業計画案ならびに予算案」
- について議事を進めた。

平成20年度は、昨年度からの各事業を継続発展させ、多くの会員の活動参加を仰ぎ、会員の有する豊富な知見・社会経験を生かして以下の事業に取り組む。

- (1) 環境保全推進事業：「環境セミナー」「企業/施設見学会」「秋季研修会」「環境公開講座」「自然観察会」を開催。水環境研究会を「水環境対策センター」に改組し、活動展開をはかる。
- (2) 環境保全啓発事業：「エコメッセ2008 in ちば」並びに各地の環境イベントに出展・参加。環境省および関東地方環境事務所との連携、県および市町村への協力。

- (3) 講師派遣事業：環境学習の支援のためカリキュラム、テキスト・機材の一層の充実をはかる。
- (4) 行政機関、事業者などに対する事業：EA21の普及。「企業環境セミナー」「地域環境セミナー」「内部監査員養成講座」の開催。
- (5) その他の事業：広報「環境カウンセラーちば」の発行。環境カウンセラー全国連合会(ECU)への協力。

五感 六感 自然を愛でよう

く)))多

自然観察ツアーも回を重ね3回目となり、今回は東北・十和田八幡平へと足を延ばします。いつもながら小角さんのお骨折りで「素晴らしい解説付きの、格安で、楽しいツアー」になりそうです。滅多に行けない地域ですので、出来るだけ多くのお仲間と楽しみを共にしたいと思います。

7月20日現在まだ数名の「空き」があります。会員ご本人のみならず、ご友人もお誘い下さい。参加費は概算見積時に比べ、大幅にダウンしました。次ページに十和田八幡平のご紹介があります。

環境学習センター自然観察 担当者一同

十和田八幡平への誘い

顧問 小角 浩

昨年の上高地研修旅行の際、話題に挙がった八幡平が起点となり、メンバー各位のいろいろな要望を取りまとめた結果、今秋の十和田八幡平国立公園の自然観察を中心とした行程が固まりました。

10月1～3日の3日間、全体として盛岡から青森へ北上する形となり、北東北の火山・豪雪地帯の地形、植生を中心として、それに関わる人々とのつながりを現地において学びたいと考えています。

「火山の博物館」とも称される八幡平ブロックは、北部のいわゆる八幡平から、後生掛・玉川の後火山現象の盛んな地点を東西両麓に抱える焼山へかけての八幡平地区、南部の田沢湖から秋田駒ヶ岳・乳頭山を中心とする駒ヶ岳地区、そして東部の岩手山を中心とする岩手山地区に大別されます。

このうち、今回は狭義の八幡平地区を中心に観察を進める予定です。八幡平から南に続く分水嶺が岩手・秋田両県の県境になっていますが、この県境を越す峠の駐車場が八幡平自然観察路の起点になっています。

石畳と木道を交えながらの整備された歩道は歩き易く、小規模な火口湖やガス噴出孔の縁を辿るうち頂上に達します。

頂上と言っても安山岩質の平頂な溶岩台地であるところから、山頂一帯を覆うアオモリトドマツの風衝樹形林冠を抜けるように展望台が整備されているのもこの山ならではのようです。

湿原や火口湖の相次ぐ展開に加え、この時期、足許の高山植物の花殻の種類豊富さは開花期の盛況を連想させ、印象に残ることでしょう。

後生掛、玉川両温泉地点の泥火山・硫噴気・高温噴泉などは八幡平の代表的な後火山現象であり、生きている地球実感のひとつとなります。

また、温泉浴の形態もそれぞれかなりユニークで、老後の保養の参考になるかもしれません。

一泊目の後生掛温泉は爆裂火口跡に建っているようなものであり、宿舎から始まる観察路も噴泉、湯沼、泥火山に加え、火山荒原特有の灌木群を間近に観察することが出来ます。

岩盤浴で知られる玉川温泉も同様な立地であり、この二つの温泉は間に焼山火山を抱え、さらにその東方の八幡平の火口群に至る、ほぼ東西直線状の位置関係にあり、地殻の一弱線に当たるようです。

一方、十和田のブロックは、十和田二重カルデラに湛えられた十和田湖、そして此处から流れ下る奥入瀬



八幡平山頂部俯瞰（遠景・岩手山）

の溪流を中心とする十和田地区、その北部にあって南北二つの火山集合体からなる八甲田山群と、その裾野に広がるブナ林・草原の織り成す景観で知られる八甲田地区から成り立っていますが、今回はほぼこの二地区を縦断するコースを設定しています。

八幡平地区から一旦、鹿角盆地に下り、改めて十和田火山の裾野からブナ林の樹海を抜けると、突然眼下に十和田湖の全貌が俯瞰されます。

十和田湖のカルデラ壁の上部にはいくつかの展望所が設定されていますが、今回初めに接する「発荷峠」はその中でも特に優れた展望を与えてくれる位置に当たります。

二重カルデラの模式図的な地形を眼下に、対岸にカルデラ壁最高所の御鼻部山越しの北八甲田連峰を望むこの峠は、十和田湖の印象を心に深く焼き付けてくれることでしょう。

二日目の宿泊は湖畔・休屋の一角にある温泉ホテルです。湖水の水質保全のため、特定環境下水道の完成に合わせて温泉ボーリングをした結果、変わらぬ湖水の水質と、今日の温泉浴を共に享受できることになりました。十和田湖では天与の自然景観もさることながら、今日までこの自然を守ってきた先人の教え、地域の協力体制の一端も紐解いてみましょう。

同時に、あまり表立っては知られていない、社会経済的側面からの技術的対応のいくつかについても、現地ならではの解説を試みたいと考えています。

湖の一端から、溶結凝灰岩を侵食して流れ下る奥入瀬の溪流は、ブナやカツラの巨木の根元を洗いながら、どんなに長雨が続けても決して濁らない、とされていますが、溪流の由縁たるこの辺りの秘密も探ってみましょう。

湖畔から14キロの焼山で奥入瀬と別れ、八甲田に向かって登りなおすルートもまたブナの林間ルートから始まります。

北八甲田の山々を間近に仰ぎながら、沿線植生の垂直分布の変化を観察する一方、豪雪地帯なるが故の人と自然の厳しい関わり的一端をも偲びつつ、青森から盛岡へ、一路、高速道で戻り、解散となります。

第7回環境講座

アジア・太平洋水サミットと開発途上国の水問題

小関 光二

3月15日(土)、第7回環境公開講座が、千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授近藤明彦先生をお招きして、千葉市民会館で開催されました。題して、「アジア・太平洋水サミットと開発途上国の水問題」です。当日は約40名の方々が参加され会場一杯の盛況でした。

1. 水供給と衛生

安全な飲料水を利用できない人々は、アジア、オセアニア地域に多く、約6億人とのこと。その原因は、

- ①水の少ない地域では水不足と水汚染、
- ②水の豊富な地域では洪水と汚染による衛生的な水確保不足、
- ③仮想水(バーチャル・ウォーター)による生産基地での地下水位低下問題。

この仮想水輸入による生産基地水問題は、あくまで市場経済と経済合理主義の問題と考えるべきだとのことでした。中国の事例として、北京など水の少ない華北地方に長江より運河で送水する大プロジェクト「南水北調」、汚染河川の現況、汚染水の肥料としての利用などが写真で示されました。

2. 水と災害

最近の洪水が果たして地球温暖化による異常気象かとの疑問を呈されました。これ以前に考えるべき問題があると。それは治水事業の不備とその地域の持つ自然的土地条件を知らずに居住することへの警告でした。いわゆる「文明社会の野蛮人」にならないようにと。ニューオーリンズのハリケーン・カトリーナよりも昭和34年の伊勢湾台風の方が大きかったとのこと。

3. 水と食糧

農業用水、灌漑農業と食料確保の面から、水問題が地域の事例研究ではなく新しい地球環境問題であるとの考えを示されました。現在のままでは、食料生産基地では、いずれ水は不足することは確実です。その対策として、日本は食糧自給率(現在40%)を向上させ、自給自足を旨とすべしとのこと。そのためには、地域における人と自然との関わりの中で解決していかなければならないと考えているとのことでした。水問題をグローバルな視点から捉える必要性を強く感じた次第です。

☆ 第13回 水シンポジウム 2008 in ちば
8/7 幕張メッセ国際会議場 8/8 現地見学会
詳細は <http://www.mizusympo13.jp>

設立10周年記念パーティー開催

総会、10周年記念特別講演会に引き続き、千葉駅ビル・ペリエホールに場所を移して、10周年記念パーティーを開催、参加者50名。

♪ 祝辞

- ・ 環境省関東地方環境事務所 環境対策課長
溝口 幸夫様
- ・ 千葉県環境生活部温暖化対策推進室長
小澤 誠一様
- ・ (財)千葉県環境財団理事長 小久保英二様
- ・ 千葉商工会議所常務理事 斉藤 三男様
- ・ (独)国立環境研究所 芦名 秀一様

♪ 感謝状贈呈

当協議会設立から現在までの代表・会長・理事長を務められたお三方に、戸村理事長から、感謝状を贈呈。残念ながら村上氏はご欠席のため、後日感謝状を郵送。

☆ 小角 浩 (在任: 設立~1999/12)

設立に奔走、初代表を務めた。会の運営を軌道に乗せるため力を尽くした。現顧問

☆ 村上 利子 (在任: 2000/1~2003/3)

協議会の持続した活動の基礎を築いた。女性会長就任の意義は大きい。

☆ 土田 茂通 (在任: 2003/4~2007/3)

協議会の NPO 法人化実現など発展と社会的信頼に寄与した。現理事・相談役



10周年を記念しての感謝状

右 小角氏 左 土田氏

♪ 新入会員の紹介 (5名)

- 桂 徹 (松戸市) 小指 英雄 (千葉市・再入会)
- 中嶋 和彦 (浦安市) 広田 由紀江 (浦安市)
- 渡辺 忠明 (白井市・再入会)

低炭素社会へ向けて-----

カーボン・オフセットのすすめ

顧問 荒野 喆也

1. カーボン・オフセット「CO₂排出ゼロ」への挑戦

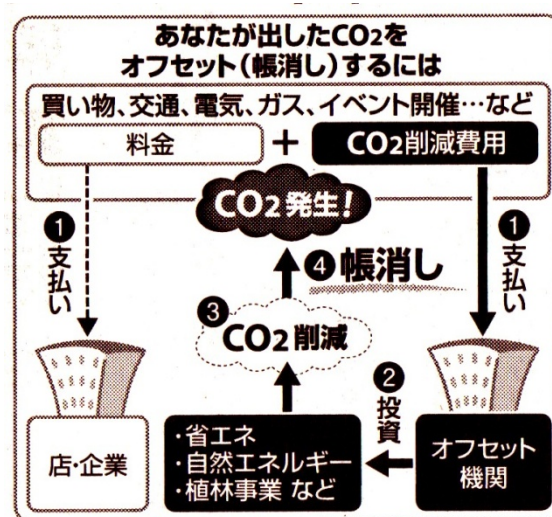
先日、任意団体「低炭素社会を考える会」は、埼玉県鳩山町にある宇宙航空研究開発機構 JAXA の地球観測センターへ 観測衛星からみた地球の環境保全状況を観察し、病める地球の現状を把握し、検討するためにでかけた。このときに JTB と協力して挑戦したのがカーボンオフセット「CO₂ 排出ゼロ」旅行である。これは貸し切りマイクロバスを利用した団体旅行であったが、この旅行で排出した CO₂ を相殺(オフセット)してカーボンニュートラルをめざし、地球温暖化対策に貢献する仕組みである。オフセットするには旅行中に発生する CO₂ を金額換算し、これを利用者が負担しグリーン電力証書を経由して自然エネルギー(ソーラー、風力、バイオマス発電等)を購入し排出 CO₂ を相殺しゼロにする仕組み(図参照)で、ちなみに今回の小旅行のオフセット負担分は1人当たり140円であった。

2. カーボン・オフセットの効用

地球環境問題は、いまや待ったなしで、しかも我が国は京都議定書における国際的な約束事項である温室効果ガス排出量-6%の目標達成が危ぶまれている。なかでも目標達成を阻害しているのは、近年の民生・業務部門の大幅な増加分である。この部門の対策に効果的と期待されているのがカーボン・オフセットの仕組みである。この仕組みの特長は、個人でも、企業でも誰でも簡単にすぐ参加できることと、そのコストもそれほど負担にならないことなどである。

3. カーボン・オフセットの身近な事例

最近のオフセット事例としては、何ととっても洞爺湖サミットである。洞爺湖サミットは政府がオフセットした。各国代表団の空路利用や宿泊、会議などの CO₂ 排出量は約 25,000 トンと推定され、その相殺にざっと 8 千万円ほどかかるといわれており、途上国での風力発電所建設など CO₂ を減らす事業にお金をだし、自らが出す CO₂ の量に応じて「排出権」を取得するという。個人の例では、都内のあるホテルで行われた結婚披露宴で会場入口に「カーボン・オフセット」の証書が飾られ、多くの招待客が迎えられた。そして新郎の挨拶で証書の意味が「地球の未来のため、この部屋を照らす電気が出した CO₂ をゼロにします」と解説された。



先行している海外の事例では、2006年のワールドカップで、期間中に排出した CO₂ を途上国での省エネルギー投資で埋め合わせたとされているし、同じサッカー関連では、Jリーグの清水エスパルスが「カーボンオフセットクラブ化計画」を打ち出している。また、また、首都圏の 8 都県市が温暖化防止行動の一環として首都圏の J1 と J2 の 10 チームが 7 月の 2 日～13 日に主催する各 1 試合をオフセットした。ちなみに気になる 10 試合の電気使用量は 38,000kWh で家庭の 3,800 世帯の 1 日分に相当するという。

4. 今後の展開

今後は、京都議定書の約束履行のためにも不可欠な仕組みで環境省もガイドラインを 2 月に公開しているし、推進機関としてカーボン・オフセットフォーラムもこの 4 月に旗揚げして制度設計を急いでいる。今後は国も温暖化対策推進法等の法改正もにらみながら本格的な導入を促進するものと予測されるし、これに関連する新たなビジネスの市場も期待される。

EC 千葉 10 周年記念広報特別号

設立 10 周年を記念しての企画で、11 月初旬発行予定です。スタート時からの記録となるよう、資料集めをしています。広報 33 号までの合本を作りました。会が発展してきた様子がうかがえます。

協議会発足からの思い出として「あんなこと・こんなことあったでしょう」を募集中です。振り返ってみる、この過去は案外身近です。

お手持ちの資料や情報、写真等をお寄せください。

二宮氏をチーフに広報部が担当します。乞ご期待☆

環境学習出前授業 東京学館浦安高等学校

1. 2年目の東京学館浦安高校

種本利治

昨年度に引き続き、今年度も同校1年生の総合学習「エコライフ」の授業に我々の環境学習出前授業が採択された。同校では以前から総合学習の時間に外部講師を招いて、様々な分野の勉強を続けてこられたとのこと。我々の授業には、予め希望テーマを選択した各組数人ずつの生徒が1クラスに2-30人集まる。時間は1回当たり50分+50分である。今までのところ、「廃棄物と不法投棄」及び「水環境」の2テーマが選ばれている。今秋も2日間で4クラスの授業が予定されており、我々が用意している残りの13テーマの中からも採択して頂けたら有難いと思う。

昨年度は環境学習センターのメンバーが手分けして、約15高校へ環境学習の広報でお邪魔した。関心を持たれた学校に繰り返し広報活動を行うことで次第に理解して貰えるようになることは、経験が教えるところである。テキスト内容の改善、授業方法の改善と併せて広報活動の改善にもセンター員が力を合わせて取り組み、我々の環境に関する思いを若い世代に伝えていく機会を増やしたい。

なお、6月21日の授業は、地域新聞社の取材を受け、千葉東版の7月18日号に掲載された。

実施日および受講生徒数：

廃棄物	5月31日	22名	6月21日	24名
水環境		24名		23名

2. 廃棄物と不法投棄

「モッタイナイ」の心で廃棄物を見直そう

石黒 茂

大山、石黒、本間が担当した。テーマの狙いは、

- ①現在のごみ問題は、将来もっと顕著になる可能性が高いので、他人事ではないということを自覚する。
- ②その上で3Rを実践することである。このことを踏まえ、授業の前半は、危機感を共有するために、法律の仕組みや地方財政等の問題を含め、川上（エネルギー、食料問題等）から川下（埋立、焼却場問題等）まで幅広く解説した。

後半は、IC基板等多種類のサンプルを教材にして、リサイクルのための分別方法を話した。当方の狙いは、多種類のごみに触れることによって気楽にリサイクル

に参加して貰うこと。現状では埋立処分されているレアメタル等の有価物のリサイクル方法についても説明を行なった。

今年は説明方法をOHP、PC・プロジェクター、黒板活用など色々と工夫をこらした。講座後受領したアンケートには、3R実践への意気込みや講師への感謝等の意見が多かった。今後は生徒の目線や出席人数を考慮した、双方向の楽しい授業を目指したい。



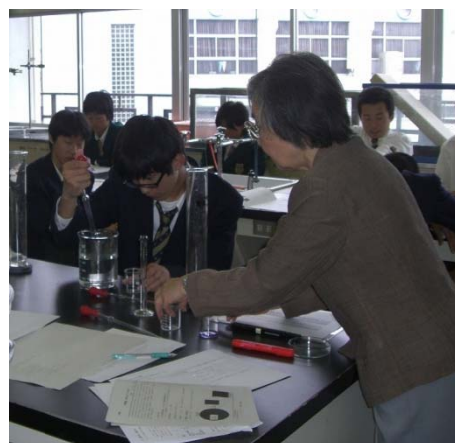
廃棄物も分別すれば有価物

3. 水環境「命をはぐくむ水！」

上口 清彦

佐藤素子、久保田、長谷川、中庭と共に担当した。

前年と今年とで生徒さんの様子が異なることに改めて驚きを感じた。私達講師陣の対応力が求められていることを学び、講師全員が協力してスムーズに授業を行うことの重要性を痛感した。授業の流れを調整する難しさと、指導する側の立場の在り方が問われた思いである。中庭氏の意見では学習指導要領を知っていれば役に立つことがあるとのことなので、今後勉強するつもりだ。受領レポートへのコメントが一番難しい。今後も講師として、要請に応えられるよう研鑽したい。



地球の水の量を測る

環境マネジメントシステム支援センター

平成20年度活動計画

1. 第11回企業環境セミナー

「経営改善に役立てる環境マネジメントシステム」

10月17日(金) 13~17時於千葉商工会議所

EMSを「環境改善と経営改善の道具として

役立てる」ために

基調講演 三須一芳

その後3つの分科会に分かれ意見を交換する。

(1) 「EMSの審査登録の変りつつある審査基準への対応について」 リーダー：廣川一男

(2) 「経営に有効性の高い目的、目標の設定方法」
リーダー：山本光男

(3) 「経営改善に役立つ内部監査」
リーダー：西田啓作

各分科会では参加各社の悩みや疑問点なども取り上げ議論を行う。参加費：1,000円

2. EA21普及セミナー

今年度は大きなセミナーを3回実施予定している。

(1) 8月22日(金) 午後 於千葉商工会議所
EA21 地域事務局、千葉商工会議所との共催で「エコアクション21」の普及セミナーを開催する。

①今、何故、エコアクションか？

講師：杉本公成

②エコアクション21の取組方法とそのメリット

講師：宮田 勉

③事例紹介

・廃棄物処理業 山本産業

・自動車整備業 永光自動車工業

④認証・登録の手続きとそのポイント

講師：西田啓作

参加費：無料

(2) 11月 予定 於市川商工会議所

8月22日実施のセミナーに準じ開催予定

(3) 平成21年1月末~2月にかけてどこかで開催を計画したい。

3. 内部監査員養成講座の開催

平成20年度は環境3回、品質3回を計画している。

環境3回を通常の内部監査員養成講座2回と内部監査員スキルアップ講座1回に分けて対応することにする。

品質は3回とも内部監査員養成講座として行う。

① 5月20日(火)・21日(水)

内部品質監査員養成講座 講師：野口 久
受講者20名で実施済み。

② 6月19日(木)・20日(金)

内部環境監査員養成講座 講師：野口 久
受講者18名で実施済み。

③ 9月25日(木)・26日(金)

内部品質監査員養成講座 講師：野口 久
①と同じ内容。

④ 10月23日(木)・24日(金)

内部環境監査員スキルアップ講座 講師：西田啓作
受講者はある程度内部監査を経験した人とする。

⑤ 1月29日(木)・30日(金)

内部品質監査員養成講座 講師：野口 久

⑥ 2月9日(月)・10日(火)

内部環境監査員養成講座 講師：野口 久

何れも受講料3万円

講義、ワークショップにすべて出席し、理解度テストに合格した人に修了証を発行する。

環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵

市原市 第一回夕方セミナー

今年度から、市原市と市原商工会議所では市内中小製造業の振興に力を入れており、市ではこの4月より中小企業コーディネーターを2名採用し、戸別訪問を実施するなど、中小製造業へのサポートを行っている。その一環として、市と商工会議所が共催し、仕事が終わってから集まって勉強する「夕方セミナー」が開催された。

日時：7月10日(木) 18時~19時30分

講演：「私たちができるコストダウン！」

電気との上手な付き合い方

講師：東京電力千葉支店 丹羽健太郎氏

企業出席者 約20名

交流会：19時30分~20時30分

簡単な立食形式で名刺交換も含めて懇親を深めた。市原市、市原商工会議所、東京電力、NPO関係者など30名余の参加があった。

☆ポスター、ちらしなどの配布

NPO2団体の1つとして当協議会が出展を認められ、環境カウンセラー千葉県協議会のポスター、EA21のパネル展示のほか EA21 普及セミナー(8/22)のちらし、企業環境セミナー(10/17)のちらし配布を行った。今後、何かと協力できる案件が出てきそうである。

当協議会出席者：二宮 恵、吉海照直

地域短信

総務部からのお知らせ

寄付金 (2008年2月27日～7月20日)

土田茂通様	31,000円	種本利治様	12,000円
戸村 泰様	4,000円	服部達雄様	5,000円
村上利子様	5,000円	國廣隆紀様	28,000円
山本光男様	20,000円		

有難うございました。

ECU 便り

ECU 総会：6月27日(金) 東京都北区滝野川会館
平成19年度、事務所を杉並に移設、事務局は中南氏
を中心に運営。

1. 20年度事業計画と予算：

「環境教育推進に関する事業」10事業のみ特化。

- ①インストラクター認定登録
- ②同上認定セミナー
- ③緑化エコリーダー認定登録
- ④EC登録対策セミナー
- ⑤緑化エコリーダー養成セミナー
- ⑥EC研修受託
- ⑦教材監修
- ⑧こども放課後クラブPJ
- ⑨エコプロダクト展
- ⑩環境政策提言

事業費はほぼ独立採算を基本とし、管理費は会費及び
賛助会費でまかない、財政の黒字化を目指す。

2. 20,21年度の役員と体制

理事長：上田隆一(埼玉)、副理事長：鈴木富雄(杉並)、
高井茂(大阪)、古里明瑠(東京城北)、佐々木進市(風人
茨城)、常務理事9名、理事16名、監事3名、執行理事5
名。EC千葉からは小角浩：常務理事(緑化)、土田茂通：
常務理事(ブロック協議会長)、本間格：執行理事

新設部署には会長：炭谷(前環境省事務次官)、最高
顧問：鈴木基之、顧問：先崎、富川となる。

3. その他：EC千葉戸村泰が理事長功労賞を受賞

4. 講演会：「環境福祉時代の到来と課題」

環境新聞社小峰氏

♪ ちばし手づくり環境博覧会

(2008 ちばし環境フェスティバル)

野口 康男

6月5日から6月10日、手づくり環境博覧会が千葉
市中央区の Qiball(きぼーる)1階アトリウムで開催さ
れた。千葉市内で活動する参加団体の日頃の環境保全
活動の発表や、相互交流の機会ともなった。

実演は燃料電池実験装置 2セットと照明比較テスト
装置 1セットを使用した。当日会場には土曜日とい
うこともあり多数の入場者があった。大部分の人が家族
連れで、小さな子どもには実演装置に人気が集まった。

参加者：戸村、服部、二宮、大手、石黒、野口

♪ イオン(株)による環境展

6月3日～15日、イオン(株)八千代緑が丘店で環境展
が開かれた。出展は八千代市役所(環境保全、クリーン
推進課、農政課)とエコライフやちよ、八千代ごみゼロ
の会、八千代自然と環境を考える会。市内の環境団体
が今後参加するには良い形態がととのったと言えるだ
ろう。今秋も開催される様で、次回に向けて内容を検
討する必要があるようだ。

♪ 上野科学博物館の「ダーウィン展」に続き東京大学
駒場博物館で「進化学の世界—ダーウィンから最先端の
研究まで」開催中。地球上に酸素をもたらしたという
ストロマトライトの展示あり。9/23まで。必見！

——編集後記——

- ☆ 10周年という節目の年に、広報担当で関わることが
でき、光栄！？ なんてあれ歴史をたどるのは楽しいも
のです。今後も発信基地を目指して Go! ♪(倉田智子)
- ☆ 長年北海道に滞在していたため、この暑さがこたえ
る。体感温度はホット！Hot！実は自宅に戻れて内心
ほっと :-) しかし気持の入替が必須。(本間 格)
- ☆ 34号も私の担当は写真でした。満足のゆくものが無
く改めて難しさを実感！更なるできればえを目指して奮
闘中。(上口清彦)

広報 環境カウンセラーちば 第34号 (発行日 2008年8月1日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (発行責任者：戸村 泰 会員：128名)

URL：[http:// www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm](http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm)

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方 (郵便宛先)

事務局：Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 ec_chiba_exec@yahoo.co.jp (各種ご相談、お問い合わせ先)

郵便振替口座：00110-5-34692 (加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会) 会費はこちらに！

編集：広報部 倉田智子・本間 格・上口清彦・二宮 恵・松本源寿・佐藤素子

E-Mail fwkd4421@ymail.plala.or.jp (記事寄稿先)

再生紙を使っています。